

## 第七六回宮城県仙台第二高等学校卒業式

### 祝辞

令和六（二〇二四）年元旦に、能登半島地震があり、自然の力は暴力的であり、破滅的な能登の姿を目の当たりにしました。震災によって亡くなられた、あるいは被害を受けられた人々に哀悼の意を捧げたいと思います。

一方、コロナ感染禍、ウクライナ、あるいはパレスティナにおける戦争と、人間の力も暴力的であり、破滅的な姿を曝しております。時間、空間が短縮され、網の目のように形成された、この「グローバルな地球社会」で起きるささまざまな事象は、「ローカルな地域社会」でも、その影響から逃れ出ることができません。

たとえば、宮城県における、新型コロナウイルスによる感染拡大は足掛け四年ほど続き、卒業を迎えるみなさんは、中学校、高等学校と、さまざまな制約を受け、学業、学内行事に十全と取り組めない時期もあったことでしょう。しかし、昨年五月、新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、だいぶ落ち着き、原則、通常通りの体制にはほぼ戻ったと聞いております。その結果、令和五年度宮城県仙台第二高等学校、第七六回卒業生に対する卒業式は、ご父兄の皆さんにも多数列席いただき、ここ講堂において、挙行されることとなりました。幸せなことです。「あなたふとあなうるわし 豊栄昇朝日の御影 そのかげを しるしとあふぐ」で始まる卒業生の皆さんの校歌斉唱を直に聞けるとのことだからです。

栄えある今日を迎えた卒業生は、

男子一六二名、女子一五〇名、合計三一二名とお聞きしております。

宮城県仙台第二高等学校同窓会を代表いたしまして卒業生の皆さんにお祝いを申し上げますと共に、一日千秋の思い出で今日を待っておられたご父兄のみなさんに対しても衷心よりお祝い申し上げます。

正面正門から校舎を仰ぎ見ると、玄関前面壁フアサードに、レリーフの校章が掲げられております。もともと、仙台二中開校四年目、明治三六（一九〇三）年に、徽章が制定され、この校章の八方に放たれた放射光は、日光であります。芭蕉の『奥の細道』をひもとくと、日光山詣註1の際「あなたふと青葉あおば若葉わかばの日のひ光ひかり」という句が思い起こされます。太陽は、日の本もとに生活しているわれわれのみならず、取り囲む自然を照らし出し、生きるエネルギーを森羅万象に与えてくれているのです。その当時の笹倉新治二代目校長は、太陽礼賛者であり、太陽になぞらう人倫を解き、八方に放たれた放射光は、それぞれ「正義」「自由」「剛健」「質実」「平和」「友愛」「協同」「自治」を象徴シンボルしていると、生徒に説明したといわれています。現在の二高生においても、これらの建学の精神は生かされているのではないかと思います。

明治三五（一九〇二）年に入学し、明治四〇年（一九〇七）の五年次に仙台二中を中途退学し、海軍兵学校に入学した生徒に、笹倉校長の薫陶を受けた井上成美しげよしがおりました。井上成美しげよしは、順調に海軍の将校としての階段を登り、昭和十六（一九四〇）年一月、海軍中將として五十一歳で航空本部長になりました。日米開戦の一年前です。無謀な欧米との開戦を諫めながらも、大艦巨砲主義を廃し、海軍の空軍化を目指す「新軍備計画論」を提出しております。

昭和十七（一九四二）年から海軍兵学校の校長を拝命しております。ある教官が「敵性語である英語を入学試験に使うのはどうか」といったところ「外国

語もわからないで戦争が勝てるか」と一喝したと言われています。英英辞典の使用を推奨し、英語と数学の教育に力を入れ、卒業後すぐに役立つような幼稚教育を排し、将来大木に育つ学士教育を実行しました。

昭和一九（一九四四）年八月、海軍次官就任後直ちに世界のあらゆる情勢を分析して出た結論は「戦争終結」であり、終戦工作に着手しました。井上成美しげよしの部下であった高木惣吉少将は、戦後、次のように述べています。「……………井上（成美）大将は、私が（終戦工作の）功労者のように述べておられますが、以前述べた如く、私はお使い小僧に過ぎなかつたので、米内（光政、海軍大臣）、井上（成美、海軍省次官）両上司の考えを関係要所に浸透させるのが私の任務でした。……………井上次官は自ら外部の嫌な奴らと接触されなかつたので、私に功を譲ろうとしておられるが、米内さんは志正しくも節堅きも弁舌が下手で説得力がなく、井上さんの政宗のような切れ味の腕前で終戦の大事の緒に就いたと思います。」

無条件降伏した昭和二〇（一九四五）年八月一五日には、海軍大将でしたが、まもなく横須賀の山奥の長井に隠栖し、近所の子供たちに英語を教えて、清貧な生活を続けました。「先見開明の人」井上成美しげよしは、昭和五〇年（一九七五）一二月亡くなっています。

昭和二一（一九四六）年十一月三日に、個人の尊厳を基本原理とする日本国憲法が公布されました。日本国憲法十四条では「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と成文化されました。現在、宮城県でも、「男女同権」はもとより、本学では、平成十九（二〇〇七）年に男女共学になり、十八年目を迎えております。高校における「男女共学」も、

社会通念となってきました。

政治、経済、法律、生活、文化のあらゆる領域が、互いに密接につながる「グローバルな地球社会」の構造的変容に対応した人材育成が求められております。日本列島、東北、仙台という「ローカルな地域社会」と、「グローバルな地球社会」との協働による理想的な形態を実現するのは、ここに列席している皆さんをはじめとする、一人ひとりの若人の、多様性に満ちた生きるエネルギーの集積であると確信しております。

宮城県仙台第二高等学校同窓会会員一同、皆さんのご卒業を心からお祝い申し上げます。本来の真の自己探求に励み、まわりの人々の心身の痛みに心を寄せ、和らげようと励み、ひいては未来の地球社会、地域社会に貢献する人間として成長することを、祈念し、祝辞といたします。

令和六年三月一日

宮城県仙臺第三高等学校同窓會

會長

佐藤一郎

